

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3141337号
(U3141337)

(45) 発行日 平成20年5月1日 (2008.5.1)

(24) 登録日 平成20年4月9日 (2008.4.9)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 1 D 1/06 (2006.01)

A 4 1 D 1/06 M

A 4 1 D 27/10 (2006.01)

A 4 1 D 1/06 5 O 2 H

A 4 1 D 27/10 C

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2008-802 (U2008-802)
(22) 出願日 平成20年2月15日 (2008.2.15)(73) 実用新案権者 592019523
株式会社ゴールドウインテクニカルセンタ
ー
富山県小矢部市清沢 2 3 0 番地
(74) 代理人 100095430
弁理士 廣澤 勲
(72) 考案者 前田 一美
富山県小矢部市清沢 2 3 0 株式会社ゴ
ールドウインテクニカルセンター内
(72) 考案者 津川 佳代
富山県小矢部市清沢 2 3 0 株式会社ゴ
ールドウインテクニカルセンター内

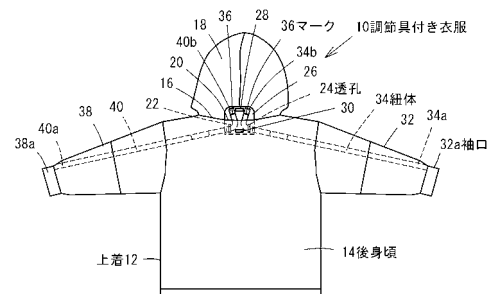
(54) 【考案の名称】 調整具付き衣服

(57) 【要約】

【課題】簡単な構造で袖やズボン等の長手方向の長さを、容易に正確に調整することが可能な調整具付き衣服を提供する。

【解決手段】衣服である上着 1 2 の生地を貫通した透孔 2 4 と、上着 1 2 の内側に沿って設けられた紐体 3 4、4 0 を備える。紐体 3 4、4 0 の一端部は、透孔 2 4 から上着 1 2 の外に引き出されて係止され、他端部は透孔 2 4 から離れた端部である袖口 3 2 a、3 8 a に固定されている。紐体 3 4、4 0 の透孔 2 4 から引き出された端部付近には、紐体 2 4、4 0 の引き出し長さを確認するマーク 3 6 を備える。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

衣服の生地を貫通した透孔と、前記衣服の内側に沿って設けられた紐体を備え、前記紐体の一端部は、前記透孔から前記衣服の外に引き出されて係止され、他端部は前記透孔から離れた前記衣服の端部に固定され、前記紐体の前記透孔から引き出された端部付近には、前記紐体の引き出し長さを確認するマークが設けられていることを特徴とする調節具付き衣服。

【請求項 2】

前記紐体は、前記衣服の所定部位で対称に一对が設けられ、前記一对の紐体の前記マークは、前記紐体の固定された端部からの長さが互いに等しい位置に設けられ、前記マークは前記紐体の長手方向に沿って等間隔に複数個が設けられ、前記紐体の前記透孔から外に引き出された部分には、前記紐体を保持して所定位置に係止する止め具が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の調整具付き衣服。

【請求項 3】

前記紐体は長手方向に交差する断面形状が薄い平紐状であり、前記マークは前記紐体に糸で刺繍して形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の調整具付き衣服。

【請求項 4】

前記紐体は、前記衣服の右袖と左袖に各々設けられ、前記透孔は前記衣服の襟の後に設けられ、前記紐体の一端部は前記各袖の袖口に固定され、前記紐体の他方の端部は前記各袖を通過して前記襟の後に設けられた前記透孔から引き出され、前記一对の紐体の前記マークを揃えて絞り量を互いに等しくして係止可能としたことを特徴とする請求項 1 記載の調節具付き衣服。

【請求項 5】

前記紐体は、ズボンの左右の足部に各々設けられ、前記透孔は両足部の付け根付近に一对が設けられ、前記紐体は前記各足部に一对が設けられ、前記各足部の一方の紐体は前記足部の端部の内股側に固定され、他方の紐体は前記足部の端部の外側に固定され、前記一对の紐体の他方の端部は前記足部の付け根に設けられた前記透孔から引き出されたことを特徴とする請求項 1 記載の調節具付き衣服。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この考案は、衣服の長さを部分的に短くする機能を有する調整具付き衣服に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、子供用の防寒具などで、袖の長さやズボンの丈を調整する調整具が付いた衣服がある。これは、袖やズボンの長手方向に沿って紐体を挿通し、紐体の一端部は袖やズボンの内側に固定され、他端部は衣服に設けられた透孔を通過して衣服の外側に延出し、延出した部分に、紐体の係止部が取り付けられたものである。このような袖やズボンの長さ方向の調節具の使用方法は、紐体を、裾やズボンが所望の長さとなるように引き出し、引き出された紐体に係止具を固定し、係止具が上記透孔の周縁部に係止され紐体が衣服に戻らないようにする。そして、衣服に挿通されている紐体の長さを変更し、衣服の絞り量を変えて衣服の大きさを部分的に調整することができる。

【特許文献 1】特開 2003-221707 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

上記背景技術の場合、着用感を良好とするため袖やズボンの左右の長さを同じに調整した方が良いが、絞り量を左右等しく調整することが困難であった。絞り量を左右等しくす

10

20

30

40

50

るためには、透孔から引き出された紐体の長さや、袖やズボンの長さを左右で比べてほぼ等しくするだけであり、正確ではなかった。

【0004】

この考案は、上記従来の技術の問題点に鑑みてなされたものであり、簡単な構造で袖やズボン等の長手方向の長さを、容易に正確に調整することが可能な調整具付き衣服を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案は、衣服の生地を貫通した透孔と、前記衣服の内側に沿って設けられた紐体を備え、前記紐体の一端部は、前記透孔から前記衣服の外に引き出されて係止され、他端部は前記透孔から離れた前記衣服の端部に固定され、前記紐体の前記透孔から引き出された端部付近には、前記紐体の引き出し長さを確認するマークが設けられている調節具付き衣服である。

10

【0006】

前記紐体は、前記衣服の所定部位で対称に一对が設けられ、前記一对の紐体の前記マークは、前記紐体の固定された端部からの長さが互いに等しい位置に設けられ、前記マークは前記紐体の長手方向に沿って等間隔に複数個が設けられ、前記紐体の前記透孔から外に引き出された部分には、前記紐体を保持して所定位置に係止する止め具が設けられているものである。

【0007】

前記紐体は長手方向に交差する断面形状が薄い平紐状であり、前記マークは前記紐体に糸で刺繍して形成されている。

20

【0008】

前記紐体は、前記衣服の右袖と左袖に各々設けられ、前記透孔は前記衣服の襟の後に設けられ、前記紐体の一端部は前記各袖の袖口に固定され、前記紐体の他方の端部は前記各袖を通過して前記襟の後に設けられた前記透孔から引き出され、前記一对の紐体の前記マークを揃えて絞り量を互いに等しくして係止可能としたものである。

【0009】

また、前記紐体は、ズボンの左右の足部に各々設けられ、前記透孔は両足部の付け根付近に一对が設けられ、前記紐体は前記各足部に一对が設けられ、前記各足部の一方の紐体は前記足部の端部の内股側に固定され、他方の紐体は前記足部の端部の外側に固定され、前記一对の紐体の他方の端部は前記足部の付け根に設けられた前記透孔から引き出されたものである。

30

【考案の効果】

【0010】

本考案の調整具付き衣服は、簡単な構造で袖やズボン等の長手方向の長さを、容易に正確に調整することが可能であり、着用感が良好なものである。また、長さの調整の目安を正確に把握することができ、操作が簡単で、短時間で左右を揃えることができ、便利である。

【考案を実施するための最良の形態】

40

【0011】

以下、この考案の実施形態について図面に基づいて説明する。図1、図2はこの考案の第一実施形態を示すもので、この実施形態の調節具付き衣服10は、防寒用の上着12であり、防水性や防風性等を有する表生地と、柔軟な裏生地が縫い合わされて設けられ、表生地と裏生地の間には断熱材が設けられても良い。上着12は、上半身の前部分を覆う図示しない前身頃と、上半身の後部分を覆う後身頃14が設けられ、後身頃14の襟切り16にはフード18が縫い合わされて設けられている。

【0012】

後身頃14の襟切り16の後中心部分は、フード18との間が縫い残されて開口部20が形成されている。後身頃14の内側である表生地と裏生地の間には、開口部20に連通

50

する内ポケット 2 2 が設けられ、内ポケット 2 2 には、後述する紐体 3 4, 4 0 を後身頃 1 4 の内側から内ポケット 2 2 の中へ引き出す一対の透孔 2 4 が形成されている。開口部 2 0 の、フード 1 8 側の開口縁には、矩形のフラップ 2 6 が設けられている。フラップ 2 6 は、後身頃 1 4 側へ倒したときに開口部 2 0 を閉鎖するものであり、後身頃 1 4 側の面に一方の面ファスナー 2 8 が設けられている。後身頃 1 4 には、フラップ 2 6 を後身頃 1 4 に倒したときに面ファスナー 2 8 が当接する位置に、面ファスナー 2 8 に着脱可能に係合する他方の面ファスナー 3 0 が設けられている。

【0013】

後身頃 1 4 には、右肩から右手首までを覆う右袖 3 2 が設けられている。右袖 3 2 の内側、つまり表生地と裏生地の間には、紐体 3 4 が設けられている。紐体 3 4 の一方の端部 3 4 a は袖口 3 2 a 近傍に固定され、紐体 3 4 の他方の端部 3 4 b は、右袖 3 2 の表生地と裏生地の間を通過して肩に達し、後身頃 1 4 の表生地と裏生地の間を通過して、内ポケット 2 2 の一方の透孔 2 4 に挿通され、内ポケット 2 2 へ引き出されている。

【0014】

紐体 3 4 は、柔らかい適宜の生地を細長くカットして長手方向に沿って二つ折りにして縫い合わせた帯状に形成されている。紐体 3 4 の端部 3 4 b 付近には、紐体 3 4 の長手方向に沿って等間隔にマーク 3 6 が設けられている。マーク 3 6 は、紐体 3 4 の長手方向にほぼ直交する直線で形成され、紐体 3 4 の生地と異なる色の糸をジグザグミシンなどで刺繍して設けられている。マーク 3 6 は、ここでは約 5 c m の間隔で 4 個設けられている。

【0015】

後身頃 1 4 には、右袖 3 2 と同様に左肩から左手首までを覆う左袖 3 8 が設けられている。左袖 3 8 の内側である表生地と裏生地の間にも、紐体 4 0 が設けられている。紐体 4 0 の一方の端部 4 0 a は袖口 3 8 a 近傍に固定され、紐体 4 0 の他方の端部 4 0 b は、左袖 3 8 の表生地と裏生地の間を通過して肩に達し、後身頃 1 4 の表生地と裏生地の間を通過して、内ポケット 2 2 の他方の透孔 2 4 に挿通され、内ポケット 2 2 へ引き出されている。

【0016】

紐体 4 0 は、紐体 3 4 と同様に生地を細長くカットして長手方向に沿って二つ折りにして縫い合わせた帯状であり、紐体 4 0 の端部 4 0 b 付近には、紐体 4 0 の長手方向に沿って等間隔にマーク 3 6 が設けられている。マーク 3 6 は、約 5 c m の間隔で 4 個設けられている。紐体 4 0 の 4 個のマーク 3 6 の、端部 4 0 a からの距離は、紐体 3 4 の 4 個のマーク 3 6 の、端部 3 4 a からの距離とほぼ等しい。

【0017】

次に、この実施形態の調節具付き衣服 1 0 の使用方法について説明する。まず、調節具付き衣服 1 0 の上着 1 2 を着用し、右手の長さに合わせて紐体 3 4 の端部 3 4 b を透孔 2 4 から離れる方向へ引く。これにより、右袖 3 2 が絞られて袖口 3 2 a が後身頃 1 4 に近くなり、右手の長さに合うように調整される。このとき、紐体 3 4 のマーク 3 6 が何個引き出されるかを数えて絞り量を確認する。次に、左手に沿って設けられている紐体 4 0 の端部 4 0 b を透孔 2 4 から離れる方向へ引く。このとき、紐体 4 0 のマーク 3 6 の数を紐体 3 4 と同じ数だけ引き出すと、右袖 3 2 と同じ絞り量となる。なお、初めに左手の長さに合わせて調整しても良い。そして図 3 に示すように、紐体 3 4, 4 0 の端部 3 4 b, 4 0 b 同士を結んで、再び引き込まれないように係止する。その後、図 4 に示すように紐体 3 4, 4 0 の端部 3 4 b, 4 0 b 同士を結んだ結び目を内ポケット 2 2 の中に収容し、フラップ 2 6 を後身頃 1 4 に倒し、面ファスナー 2 8, 3 0 を係止して、開口部 2 0 を閉鎖する。

【0018】

この実施形態の上着 1 2 によれば、簡単な構造で、左右の袖の長さを互いに等しく調整することが可能である。簡単な操作で短時間で調整することができ、屋外等でも調整することができ、また着用者が変わっても簡単にあわせることができ、便利である。左右の袖を正確に等しくすることができ、着用感が良好である。紐体 3 4, 4 0 の端部 3 4 b, 4

10

20

30

40

50

0 b 同士を結んだ結び目は内ポケット 2 2 の中に収容され、フラップ 2 6 で内ポケット 2 2 の開口部 2 0 を閉鎖するため、外観に違和感が無く、紐体 3 4, 4 0 が他の部材に引っかかることを防ぎ安全である。紐体 3 4, 4 0 を緩めるときも、マーク 3 6 を合わせて緩めることにより、左右均等に袖口 3 2 a, 3 8 a を伸ばすことができる。

【0019】

次に、この発明の第二実施形態について図 5、図 6 に基づいて説明する。この実施形態の調節具付き衣服 1 0 は防寒用のズボン 4 2 であり、防水性や防風性等を有する表生地と、柔軟な裏生地が縫い合わされて設けられ、表生地と裏生地の間には断熱材が設けられても良い。ズボン 4 2 は、下半身の前部分を覆う前ズボン 4 4 と、下半身の後部分を覆う図示しない後ズボンが設けられ、ウエスト部分にはベルト部 4 6 が設けられている。

10

【0020】

前ズボン 4 4 は、下半身の右側を覆う右足部 4 4 a と左側を覆う左足部 4 4 b が、身体の前中心で縫い合わされて設けられている。右足部 4 4 a には、ベルト部 4 6 に隣接する部分に、下方に突出するフラップ 4 8 が設けられている。右足部 4 4 a の、フラップ 4 8 に覆われた部分には、水平方向に長い開口部 5 0 が設けられ、開口部 5 0 には図示しないファスナーが設けられ開閉自在となっている。前ズボン 4 4 の内側、つまり表生地と裏生地の間には、開口部 5 0 に連通する内ポケット 5 2 が設けられ、内ポケット 5 2 には、後述する紐体 5 6, 5 8 を前ズボン 4 4 の内側から内ポケット 5 2 の中へ引き出す透孔 5 4 が形成されている。

【0021】

20

右足部 4 4 a の内側には、一対の紐体 5 6, 5 8 が設けられている。紐体 5 6 の一方の端部 5 6 a は、右足部 4 4 a のふくらはぎ付近の内股側に固定され、紐体 5 6 の他方の端部 5 6 b は、上方に引き上げられて内ポケット 5 2 の透孔 5 4 に挿通され内ポケット 5 2 へ引き出されている。紐体 5 8 の一方の端部 5 8 a は、右足部 4 4 a のふくらはぎ付近の外側に固定され、紐体 5 8 の他方の端部 5 8 b は、上方に引き上げられて紐体 5 6 と同様に内ポケット 5 2 の透孔 5 4 に挿通され内ポケット 5 2 へ引き出されている。

【0022】

紐体 5 6, 5 8 は、生地を細長くカットして長手方向に沿って二つ折りにして縫い合わせた帯状である。紐体 5 6, 5 8 の端部 5 6 b, 5 8 b 付近には、紐体 5 6, 5 8 の長手方向に沿って等間隔にマーク 6 0 が設けられている。マーク 6 0 は、紐体 4 0 の長手方向にほぼ直交する直線で形成され、紐体 3 4 の生地と異なる色の糸をジグザグミシンなどで刺繍して設けられている。紐体 5 6, 5 8 のマーク 6 0 は、端部 5 6 a, 5 8 a からの距離が互いにほぼ等しい位置に設けられている。マーク 6 0 は、ここでは約 5 cm の間隔で 4 個設けられている。紐体 5 6, 5 8 の、透孔 5 4 から内ポケット 5 2 に引き出された部分に、透孔 5 4 より大きい止め具 6 2 が係止され、紐体 5 6, 5 8 が挿通されて、解除可能に固定し、透孔 5 4 に再び引き込まれることを防いでいる。

30

【0023】

前ズボン 4 4 の、下半身の左側を覆う左足部 4 4 b にも、右足部 4 4 a と同様に、ベルト部 4 6 に隣接する部分にフラップ 6 4 と開口部 6 6 が設けられ、開口部 6 6 に連通する内ポケット 6 8 と、後述する紐体 7 2, 7 4 を前ズボン 4 4 の内側から内ポケット 6 8 へ引き出す透孔 7 0 が形成されている。

40

【0024】

左足部 4 4 b の内側にも、一対の紐体 7 2, 7 4 が設けられている。紐体 7 2 の一方の端部 7 2 a は、左足部 4 4 b のふくらはぎ付近の内股側に固定され、内ポケット 6 8 の透孔 7 0 に挿通され内ポケット 6 8 へ引き出されている。紐体 7 4 の一方の端部 7 4 a は、左足部 4 4 b のふくらはぎ付近の外側に固定され、内ポケット 6 8 の透孔 7 0 に挿通され内ポケット 6 8 へ引き出されている。

【0025】

紐体 7 2, 7 4 は、生地で作られた帯状であり、端部 7 2 b, 7 4 b 付近にはマーク 7 6 が設けられている。紐体 7 2, 7 4 のマーク 7 6 は、端部 7 2 a, 7 4 a からの距離が

50

互いにほぼ等しい位置に４個設けられている。紐体７２，７４には、止め具７８が係止されている。マーク７６の端部７２ａ，７４ａからの距離は、紐体５６，５８のマーク６０の端部５６ａ，５８ａからの距離とほぼ等しい。

【００２６】

次に、この実施形態の調節具付き衣服１０の使用方法について説明する。まず、調節具付き衣服１０のズボン４２を着用し、右足の長さに合わせて紐体５６，５８の端部５６ｂ，５８ｂを透孔５４から離れる方向へ引く。このとき紐体５６，５８のマーク６０の数を互いに同じとすると、右足部４４ａの内股側と外側の絞り量が同じ状態で、右足の長さに合うように調整される。図６に示すように、止め具６２の固定を解除し透孔５４近傍に移動し、再び引き込まれないように固定する。

10

【００２７】

次に、左足に沿って設けられている紐体７２，７４の端部７２ｂ，７４ｂを、右足部４４ａと同様に透孔７０から離れる方向へ引く。このとき紐体７２，７４のマーク７６の数を互いに同じとすると、左足部４４ｂの内股側と外側の絞り量が同じになる。また、紐体７２，７４のマーク７６の数を、紐体５６，５８のマーク６０の数と合わせると、右足部４４ａと左足部４４ｂの長さがほぼ等しくなる。引き延ばされた紐体５６，５８，７２，７４の端部５６ｂ，５８ｂ，７２ｂ，７４ｂは内ポケット５２，６８の中に収容し、フラップ４８，６４で開口部５０，６６を閉鎖する。

【００２８】

この実施形態のズボン４２によれば、簡単な構造で、裾の長さを内股側と外側で等しくし、さらに右足部４４ａと左足部４４ｂで等しく調整することが可能である。簡単な操作により短時間で調整が可能である。内股側と外側で長さが等しく、また左右の裾の長さも等しく調整されるため、着用感が良好である。内ポケット５２，６８は、小物を入れることもできる。紐体５６，５８，７２，７４の端部５６ｂ，５８ｂ，７２ｂ，７４ｂと止め具６２，７８は内ポケット５２，６８の中に収容され、フラップ４８，６４で内ポケット２２の開口部５０，６６を閉鎖するため、外観に違和感が無く、紐体５６，５８，７２，７４が他の部材に引っかかることを防ぎ安全である。紐体５６，５８，７２，７４を緩めるときも、マーク６０，７６を合わせて緩めることにより、左右均等に裾を伸ばすことができる。

20

【００２９】

なお、この考案の調節具付き衣服は、上記各実施形態に限定されるものではなく、マークの形状や取付方法、間隔や個数は自由に変更可能であり、塗料を塗布したり、紐体の織り模様を利用しても良く、各紐体を互いに合わせ易いものであればよい。マークは目盛りを設けたものでも良い。また、紐体は帯状以外でも良く、絞ったり緩めたりする操作がし易いものであれば良い。また上着とズボン以外にいろいろな衣服に使用することができ、衣服の長さを調節する部分は、袖や裾に限定されず、肩紐や身頃等いろいろな部分に利用することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【００３０】

【図１】この考案の第一実施形態の調節具付き衣服の上着の背面図である。

40

【図２】この実施形態の調節具付き衣服の上着の袖の長さを絞った状態を示す背面図である。

【図３】この実施形態の上着の襟割りのフラップが開いた状態を示す背面図である。

【図４】この実施形態の上着の襟割りのフラップが閉じた状態を示す背面図である。

【図５】この考案の第二実施形態の調節具付き衣服ズボンの正面図である。

【図６】この実施形態のズボンの足部の長さを絞った状態を示す正面図である。

【符号の説明】

【００３１】

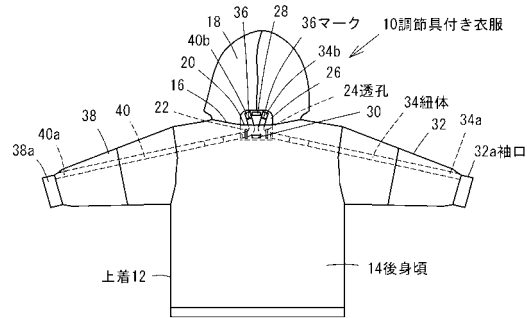
１０ 調節具付き衣服

１２ 上着

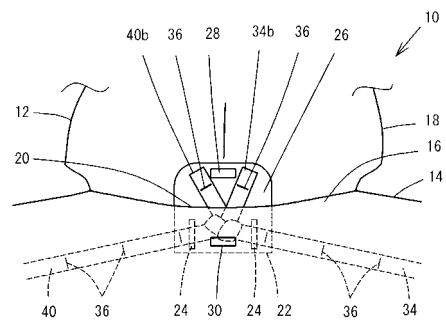
50

- 14 後身頃
- 16 襟刳り
- 20 開口部
- 22 内ポケット
- 24 透孔
- 26 フラップ
- 32 右袖
- 32a, 38a 袖口
- 34, 40 紐体
- 36 マーク
- 38 左袖

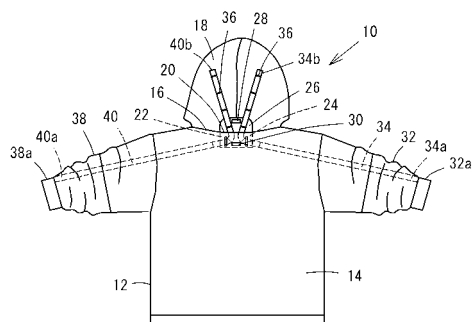
【図 1】



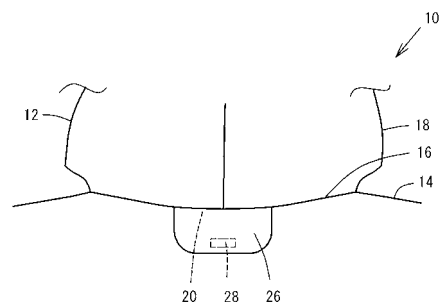
【図 3】



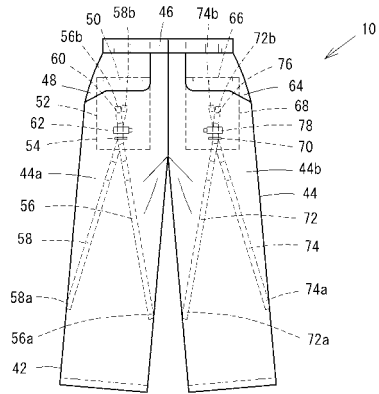
【図 2】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

